

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名（生年月日） 永田 裕恒 （****年**月**日）
本籍（外国人の場合国籍） ****
学位（専攻分野） 博士（リハビリテーション学）
学位授与番号 乙第 41 号
学位授与日付 令和4年3月21日
学位授与の要件 学位規程第3条第4項該当
論文題目 重症心身障害児者に対する環境因子としての座位保持装置及び移乗補助具についての研究

審査委員会

主査 國安勝司 副査 藤田大介 副査 岩井信彦

博士論文内容の要旨

本論文は、重症心身障害児者（以下、重症児者）が使用する福祉用具、特に座位保持装置と移乗補助具に関する基礎的資料を提示することを目的としている。序章で重症心身障害児者と福祉用具の関係について、その重要性と位置づけを述べている。第1章では重症児者と共に生活をしている保護者の座位保持装置使用に関する現状調査と満足度を調査し、必要な構成要素について「使い心地」が重要視されていることが明らかになった。第2章では、重症児者における座位保持装置使用での座位姿勢の特徴と安定した座位姿勢保持に向けての基礎的研究を行った。第1節で重症心身障害児者の姿勢の違いが自律神経活動に与える影響、第2節では座位保持装置使用時における重症心身障害児者の坐骨部圧力と左右対称性の特徴についての検証、第3節で坐骨部へかかる圧力の非対称性がリクライニング機構を使用した時の殿部ずれ力に及ぼす影響を調べ、座位保持装置使用時の基礎的なデータを得ることができた。第3章では、重症児者が座位保持装置上で安定した座位姿勢保持を保つための一方策である膝ブロックを改良試作し、その有効性についての検討を行い、一定の効果があることが示された。第4章では、簡易な移乗介助用具を使用することによって介助者の身体的負担を軽減することが出来るか否かについて検討をし、介助者の上肢の負担軽減に役立つことが示された。

博士論文審査結果の要旨

本研究は著者が障害児者施設での臨床経験を通して感じていた疑問を解決すべく取り組まれたものである。

重症児者には最適な座位を継続的に保持する座位保持装置を導入することが必要である、しかし実際には、座位保持装置作製後における適合評価が適正に行われず、重症児者が座位保持装置に身体を合わせざるを得ないという現状もある。そのような現状を改善するために、まず基礎的なデータを得る必要があると考え、共に生活をしている保護者の座位保持装置使用に関する現状調査をしている。その上で、重症心身障害児自身が背臥位、抱きかかえ座位、座位保持装置上座位それぞれの姿勢で快適性を得ているかを検証しており、生活の質の向上ための参考になっている。

また、座位保持装置上での座位姿勢において、その安定性を確認したが、左右対称的な坐骨支持が得られにくいという事実が明らかになった。その主な原因が骨盤の後傾と滑りであるため、それを防ぐ膝ブロックを試作し、一定の効果を得ることができている。また試作品は今後も改良発展が望めるものとなっている。

被検者が重症心身障害児者であるため、被検者を集めるのが非常に困難な中、7名の被検者の貴重なデータを得ることができた。本論文の内容は和文誌4本、英文誌2本に掲載されており、質的な保証もされている。臨床的にも有用な結果を示すことができおり、博士論文として十分に価値のある内容となっているため合格とした。